

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
仙台医療・スポーツ専門学校		平成19年3月29日		矢戸 周哉		〒 984-0051 (住所) 宮城県仙台市若林区新寺二丁目1番11号 (電話) 022-292-2141		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人滋慶学園		昭和58年12月23日		浮舟 邦彦		〒 134-0084 (住所) 東京都江戸川区東葛西六丁目16番2号 (電話) 03-6808-3201		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度	
医療	医療専門課程		理学療法科Ⅰ部				平成22(2010)年度	平成26(2014)年度
学科の目的		理学療法科では、「業界の即戦力となる」をスローガンに、医療、保健、介護、福祉、スポーツなどの幅広い分野におけるリハビリテーションに対応でき、患者さまや社会から必要とされ、信頼される理学療法士の養成を目的とします。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		取得可能な資格:理学療法士国家試験受験資格 令和4年度退学率:7.2%						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		3,720 単位時間	2,265 単位時間	120 単位時間	1,455 単位時間	0 単位時間
				〇〇 単位	〇〇 単位	〇〇 単位	〇〇 単位	〇〇 単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率		
320 人	269 人		0 人		0 %	9 %		
就職等の状況	■卒業者数(C)		41 人					
	■就職希望者数(D)		39 人					
	■就職者数(E)		39 人					
	■地元就職者数(F)		13 人					
	■就職率(E/D)		100 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		33 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		95 %					
	■進学人数		0 人					
	■その他							
	(令和 5 年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		有					
	※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: リハビリテーション教育評価機構 受審年月: 43922 評価結果を掲載したホームページURL https://www.sendai-iken.ac.jp/school/pdf/public/rigaku.pdf							
当該学科のホームページURL	https://www.sendai-iken.ac.jp/school/pdf/public/rigaku.pdf							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		3,840 単位時間					
教員の属性(専任教員について記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		845 単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間					
	うち必修授業時数		3,720 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		845 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間					
	(B: 単位数による算定)							
	総単位数		〇〇 単位					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		〇〇 単位					
	うち企業等と連携した演習の単位数		〇〇 単位					
うち必修単位数		〇〇 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		〇〇 単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		〇〇 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		〇〇 単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		6 人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		3 人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		2 人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0 人					
	計		11 人					
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		11 人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体の役職員及び実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業の役職員が参画する教育課程編成委員会を年2回実施し、業界の動向や変化、それに伴うニーズや必要な人材像を把握すると共に、実施している授業や教育課程を各委員に検証してもらいアドバイスや意見を頂くこととしています。また、教職員による企業訪問等を通して、更なる情報収集を図っています。それらを十分に生かしつつ、教育課程や授業方法の改善、授業科目の開設等を図り、実践的かつ専門的な職業教育を実施しています。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校の教育課程編成委員会は理事会の基に設置され、委員会の適切な運営は理事長が担保することになっています。また、委員会の審議を通じて示された企業等の要請、その他の情報や意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努めることを目的として、教育課程編成委員会を運営します。委員会で提案された意見は、学科会議で具体的な実践方法を検討し、教育課程編成に取り入れます。作成された教育課程は、教務部長・事務局長・学校長の承認を経て実施されます。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
佐々木 智徳	公益社団法人 宮城県柔道整復師会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
岩井 晃	株式会社太長会 Wellness Casa 時のかけはし	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
渡邊 好孝	一般社団法人 宮城県理学療法士会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
黒後 卓也	社団医療法人康陽会 介護老人保健施設 メーブル小田原	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
江澤 尚徳	みちのくフィットネスクラブ協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
永井 隆太郎	株式会社t-FO.AM	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
小林 茂樹	仙台市眼科医会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
池田 陽介	北海道こども総合医療・療育センター	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
鈴木 純子	全国保育士養成協議会 東北ブロック	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
高橋 祐子	仙台YMCA幼稚園	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
佐野 佐一	一般社団法人全日本司厨士協会 関東総合地方本部宮城県本部	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
柳澤 明	フードコンサルティング ハレマス	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
橋浦 邦義	宮城県洋菓子協会	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
櫻井 寿隆	コンセイユ ブーランジェ サクライ トシタカ	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
吉田 孟史	学校法人滋慶学園 常務理事	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
濱 絹代	学校法人滋慶学園 理事	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
尖戸 周哉	仙台医健・スポーツ専門学校 学校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
池田 圭一	仙台医健・スポーツ専門学校 事務局長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
羽田 智大	仙台医健・スポーツ専門学校 副校長兼教務部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (6月、2月)

(開催日時(実績))
第1回 令和5年6月11日 18:30～19:50
第2回 令和6年3月23日 17:30～19:00
第3回 令和6年6月9日 17:00～18:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
委員からは、学生の質の変化に伴う対応策の変化(多様性の理解)、学生に対する合理的配慮の施行、教員の教育レベルの更なる向上、学生に必要な教養や講義内容の検討などのご意見を頂いた。今後は、価値共創という時代に変化している点に注視しながら、進めていきたい。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
学校と業界が協力して業界が求める即戦力の人材を育成し、業界に送り出すという「産学連携教育システム」の基、即戦力としての職業人教育を行うため、業界と連携し、専門知識・技術、人間力を持ち合わせた人材育成を行います。また、教育課程に基づいて学外実習を実施し、教育課程における位置付けや成績評価基準、意義についても明確にしています。また、実施要領・マニュアル等を整備し運用しています。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
連携企業と講師業務委託契約書を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行います。授業は、兼任教員(非常勤講師)と学校が協議して作成したシラバスを基に進行され、成績評価は授業毎での到達目標への達成度並びに学期毎の定期試験の結果を以て総合的に評価されます。非常勤講師と専任教員は常に連携を密にし、情報共有しながら授業運営に係る問題解決や授業改善に取り組んでいます。また、講師会や授業アンケートを基に授業実施後の連携も密にし、以降の授業改善にも反映させます。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
保健科学	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	人間の運動に関わる身体の機能と構造について説明できる	株式会社パス&サポート
臨床評価実習	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	臨床実習指導者の下、理学療法を見学。体験し、医療人としての接遇と的確な理学療法評価が説明できる。施設での実習に加え、地域での訪問・通所リハビリテーションも含む。	介護老人保健施設エバーグリーン・イズミ、イズミ整形外科美容院、南相馬市立総合病院、亀田総合病院他
臨床実習Ⅰ	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	学んできた知識・技術を活かし、臨床実習指導者のもと、理学療法全般について経験し、実践できる。施設での実習に加え、地域での訪問・通所リハビリテーションも含む。	川久保病院、広南病院、医療生協わたり病院、野田病院、総合クリニックドクターランド松戸他
臨床実習Ⅱ	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	学んできた知識・技術を活かし、臨床実習指導者のもと、理学療法全般について経験し、実践できる。施設での実習に加え、地域での訪問・通所リハビリテーションも含む。	坂総合病院、松田病院、介護老人保健施設アルパイン川崎、山崎病院、石巻健育会病院他

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
学園の定める教員研修規定において、教員の授業内容・教育技法の改善並びにクラス運営方法の向上、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修の目的と定めています。また、中途退学者防止に向けた「学生ひとり一人」に対する対応案の企画立案・実施・評価というPDCAサイクルを展開することを年間の教育活動の中心と捉え、ファカルティ・デベロップメント活動(FD活動)を推進する専任教員に対して、以下の要素が年間を通した授業内容に反映されるよう研修を行っている。①キャリア期養育の視点②ひとり一人を見ていく視点
更に、専任教員と兼任教員(非常勤職員)で組織する講師会義において、この方針を共有し授業内容のチェック、教育技法改善に向けた研修を行っている。

(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名： 第58回日本理学療法学会学術研修大会	連携企業等： 公益社団法人日本理学療法士協会	
期間： 令和5年5月27日(土)～28日(日)	対象： 日本理学療法士協会会員	
内容 理学療法の発展と理学療法士の技術の向上のための後援、研究発表、シンポジウム		
研修名： 第41回東北理学療法学会学術大会	連携企業等： 公益社団法人日本理学療法士協会	
期間： 令和5年9月9日(土)～10日(日)	対象： 日本理学療法士協会会員	
内容 社会のニーズに対する理学療法を整理するための講演、研究発表、シンポジウム		
研修名： 全国リハビリテーション学校協会東北ブロック第8回教員研修	連携企業等： 一般社団法人全国リハビリテーション学校協会	
期間： 令和5年12月1日(金)	対象： 全国リハビリテーション学校協会加盟校教員	
内容 リハ専門職養成養育の振り返りと展望についての講演、養成校に於ける各課題について情報交換		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名： 2023年度《学科長対象》FDミクロレベル研修	連携企業等： 滋慶教育科学研究所	
期間： 令和5年7月5日(水)	対象： 学科長クラス以上	
内容 滋慶学グループのFD研修について、滋慶学園グループにおける授業デザインとその技法、事前課題		
研修名： 2023年度FDミドルレベル研修	連携企業等： 滋慶教育科学研究所	
期間： 令和5年7月20日()	対象： 学科長、教務部長	
内容 滋慶学園グループのFD研修について、滋慶学園グループにおける授業の考え方、学科運営の関連法規、学科運営とカリキュラムマネジメント		
研修名： 2023年度教職員カウンセリング研修＜第1次＞	連携企業等： 滋慶教育科学研究所	
期間： 令和5年9月14日～15日、26日～27日、28日～29日	対象： 入職1年目、2年目	
内容 青年期支援の基礎知識、滋慶学園における学生支援の基礎知識、学生支援のデザイン、学生を支援する法律と制度		
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名： 第59回日本理学療法学会学術研修大会	連携企業等： 公益社団法人日本理学療法士協会	
期間： 令和6年6月29日～30日	対象： 日本埋字療法士協会会員	
内容 理学療法の各分野における基礎研修や最新のトピックスについて		
研修名： 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	連携企業等： 日本心臓リハビリテーション学会	
期間： 令和6年7月13日～14日	対象： 日本埋字療法士協会会員	
内容 心臓リハビリテーションの最新の知見について		
研修名： 第36回大阪府理学療法学会学術大会	連携企業等： 大阪府理学療法士会	
期間： 令和6年7月28日	対象： 日本埋字療法士協会会員	
内容 理学療法の各分野における基礎研修や最新のトピックスについて		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名： 2024年度国家試験対策研修会	連携企業等： 滋慶教育科学研究所	
期間： 令和6年6月4日	対象： 教務スタッフ	
内容 国家試験合格率の更なる向上に向けて意見交換、事例研究、専門基礎テストについての検討		
研修名： 2024年度FDミドルレベル研修	連携企業等： 滋慶教育科学研究所	
期間： 令和6年7月18日	対象： 学科長、教務部長	
内容 カリキュラムマネジメントの基礎について		
研修名： 2024年度FDミクロレベル《クラスマネジメント》研修Ⅱ	連携企業等： 滋慶教育科学研究所	
期間： 令和6年7月24日	対象： 教務スタッフ	
内容 クラスマネジメントのポイントを理解し、「実行計画」の作成、実践、修正をグループワークを実施		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

【学校評価規定】として、「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、卒業生、保護者代表、近隣関係者、高等学校関係者及び業界関係者により構成される学校関係者評価委員会を組織し、学校教職員が行った自己点検・自己評価を審議・評価し、様々な角度からアドバイスや支援を行うことで、学校運営の改善に活かすことを基本方針としています。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	教育成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

各委員より各項目について概ね「優れている」との評価を頂いた。また、「コミュニケーション能力の更なる工場」「退学者の低減」「基礎学力の向上」「国家試験合格率の向上」など多くのご意見を頂いた。学校の運営会議、リーダー会議、学科会議、全体会などでこれらの意見を共有し、検討・環境整備に取り組んでいます。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
佐藤 広人	医療法人じん整形外科クリニック	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
荒井 加奈子	保護者	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	PTA
佐々木 武弘	東北生活文化大学高等学校 校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校関係者
鈴木 隆	東八中央親交会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域関係者
岩井 晃	株式会社太長会 Wellness Casa 時のかけはし	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	業界関係者
渡邊 好孝	一般社団法人 宮城県理学療法士協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	業界関係者
江澤 尚徳	みちのくフィットネスクラブ協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	業界関係者
池田 陽介	北海道子ども総合医療・療育センター	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	業界関係者
高橋 祐子	仙台YMCA幼稚園	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	業界関係者
枡澤 明	フードコンサルティング ハレマス	令和6年4月1日～令和7年3月31日(2年)	業界関係者
櫻井 寿隆	コンセイユ ブーランジェ サクライ トシタカ	令和6年4月1日～令和7年3月31日(2年)	業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.sendai-iken.ac.jp/school/pdf/09/evaluation.pdf>

公表時期: 令和6年8月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

事業計画の実行方針で提起された目標(中途退学者の低減、就職率100%、)を具現化するために、企業等からヒヤリングを行い、業界の動向を踏まえた実行計画を作成しています。企業等への具体的な情報提供方法としては、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、業界関係者である兼任教員(非常勤講師)との講師会、キャリアセンタースタッフによる企業

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育の理念、コンセプト、学校長・所在地・連絡先・沿革、その他諸活動
(2)各学科等の教育	3つのポリシー・定員、カリキュラム、卒業進級判定基準、卒業後の進路
(3)教職員	教職員数、教員実績、学校組織図
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組み状況、就職指導マニュアル
(5)様々な教育活動・教育環境	校舎設備紹介、課外活動
(6)学生の生活支援	学生支援への取組、健康管理
(7)学生納付金・修学支援	学費一覧・諸費用について、奨学金
(8)学校の財務	財務資料
(9)学校評価	学校関係者評価委員会
(10)国際連携の状況	海外実学研修、留学生支援・受入れ状況
(11)その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: https://www.sendai-iken.ac.jp/school/public_info.html

公表時期: 令和6年8月31日

授業科目等の概要

(医療専門課程 理学療法科Ⅰ部)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			自然科学	生命の基本的知識、物理学の知識、現代医療の倫理的原則を学び、説明できる。	1年前	30	2	○			○			○	
2	○			保健科学	人間の運動に関わる身体の機能と構造について説明できる。	1年前	60	2	△		○	○			○	○
3	○			教育学	教育の基本的な考え方を学び、「学び」「教える」といった情緒領域に必要な知識を説明できる。	1年後	30	2	○			○			○	
4	○			心理学	人間の心理における心理・社会・生物学的要因の相互作用について学習し、その病因を説明できる。	1年前	30	2	○			○			○	
5	○			コミュニケーション論	社会人として基本となるコミュニケーション技術を理論的に説明できる。	1年前	30	2	○			○		○		
6	○			統計学	疫学的研究に役立てるための、データ処理・分析や解析の統計法を説明できる。	2年後	30	2	○			○			○	
7	○			情報管理学	個人情報の管理やデータの扱い方を学び、またITリテラシーについて説明できる。	4年前	30	2	○			○		○		
8	○			英語	具めろーばるな感性を養うためのコミュニケーションに必要な簡単な英会話を身につけることができる。	1年前	30	2	○			○			○	
9	○			医学英語	医学の専門用語を学習し、リハビリテーションに関する文献を読むための能力を養うことができる。	3年前	30	2	○			○		○		
10	○			医療福祉論	諸外国の情勢や医療福祉制度を学び、国際的な視野から職業観を身につけることができる。	2年後	30	2	○			○		○		
11	○			解剖学Ⅰ	人体についての概要を説明できる。筋骨格系の構造を学び、骨・関節・筋の本質を説明できる。	1年前	60	2	○			○			○	
12	○			解剖学Ⅱ	人体の肺管系、神経系、感覚器系、内臓系の本質を説明できる。	1年前	30	1	○			○			○	

13	○		解剖学実習	解剖学Ⅰ・Ⅱで得た知識を基に、標本に実際に触れながら、具体的な人体構造を説明できる。	1年後	90	2			○	○			○	
14	○		生理学Ⅰ	人体の機能（心・神経、呼吸・循環、消化・吸収等）について説明できる。	1年前	60	2	○			○			○	
15	○		生理学Ⅱ	運動や動作時の故旧・循環応答機能について理解し、またその変化についても説明できる。	1年後	30	1	○			○			○	
16	○		生理学実習	生理学で学習した知識を基に、実習を行いながら、人体生理学の理解を深めることができる。	1年後	45	1			○	○		○		
17	○		運動学	解剖学的知識から、生態力学や運動と動作の分析、運動学習等、人間の運動を科学的に説明できる。	1年前	60	2	○			○		○		
18	○		運動学実習	運動学的知識について実習を通して体験し、運動学の知識理解をさらに深めることができる。	1年後	45	1			○	○		○		
19	○		人間発達学	人間発達の各段階に対応できるよう、出生から成人に至るまでの心身の成長過程を説明できる。	1年後	30	1	○			○			○	
20	○		医学概論	医学の成り立ちや本質を学び、現代医学に生じる諸問題について説明できる。	1年後	30	1	○			○			○	
21	○		病理学	疾病を学ぶにあたり、組織・細胞などの形態学的な病変について説明できる。	1年後	30	1	○			○			○	
22	○		臨床心理学	心理学における臨床理論を体系的に学び、分析技法・発達などを通し、アセスメントについて説明できる。	1年後	60	2	○			○			○	
23	○		障害論	基礎的な社会福祉や障害、また広い意味でのノーマライゼーションを説明できる。	2年前	30	1	○			○		○		
24	○		一般臨床医学	医療従事者として必要な医学一般の知識（総合診療、臨床薬学、栄養学、画像診断額などを含む）について説明できる。	2年後	30	1	○			○			○	
25	○		整形外科学	理学療法士に必要な整形外科的疾患の病態・診断・治療について説明できる。	2年前	60	2	○			○			○	
26	○		神経内科学	理学療法士に必要な神経内科的疾患の病態・診断・治療について説明できる。	2年後	60	2	○			○			○	
27	○		小児科学	理学療法士に必要な症に疾患の病態・診断・治療について説明できる。	2年後	30	1	○			○			○	

28	○		内科学	理学療法士に必要な内科的疾患の病態・診断・治療について説明できる。	3年前	30	1	○			○		○	
29	○		救急医学	基本的な救急医科セク・医療について学び、また様々な疾病の病態、リスク管理について説明できる。	3年前	30	1	○			○		○	○
30	○		精神医学	理学療法士に必要な精神疾患の病態・診断・治療について説明できる。	4年前	30	1	○			○		○	
31	○		リハビリテーション医学	リハビリテーション医学の歴史や体系について学び、また障害の診断・治療について説明できる。	1年後	30	1	○			○		○	
32	○		リハビリテーション概論	リハビリテーションの理念（歴史、自立支援、就労支援等）を理解し、多職種連携の重要性について説明できる。	1年前	30	1	○			○		○	
33	○		老年学	加齢現象を学び、理学療法の対象となる高齢者に対する、具体的アプローチの実際を説明できる。	4年前	30	1	○			○		○	
34	○		社会保障制度論	社会保障の体系や地域包括ケアシステムについて学び、様々な保険について説明できる。	4年前	30	1	○			○		○	
35	○		理学療法概論	理学療法の歴史・定義などについて学習し、職業理解を深めることができる。	1年前	30	1	○			○		○	
36	○		臨床運動学	運動学で知り得た知識と臨床実習で学んだ知識を基に臨床的視点とバイオメカニクスを理解し、概要を説明できる。	4年前	60	2	○			○		○	
37	○		理学療法研究法	リハビリテーション・理学療法領域研究の進め方や実施方法、思考方法を説明できる。	4年前	30	1	○			○		○	
38	○		卒業研究	理学療法を実施するにあたっての知識や技術の理解を最大限に深めることができる。	4年通年	120	4	○			○		○	
39	○		理学療法教育学	理学療法士の教育システムや組織での人材育成方法などについて説明することができる。	4年前	30	1	○			○		○	
40	○		理学療法管理学	医療人としての職業倫理、組織運営、理学療法のマネジメントについて説明できる。	4年前	30	1	○			○		○	
41	○		理学療法評価学Ⅰ	基本的な理学療法評価の間、変え方やランドマーク、姿勢アライメント、形態測定等の評価技術について説明できる。	1年前	30	1	○			○		○	
42	○		理学療法評価学Ⅱ	理学療法評価技術の関節可動域測定、筋力測定等について説明できる。	1年後	60	2	○			○		○	

43	○		理学療法評価学Ⅲ	評価学Ⅰ・Ⅱで学習した評価技術を復習し、さらにADFLテストや故旧・循環機能検査等が説明できる。	2年前	30	1	○			○		○		
44	○		理学療法評価学実習Ⅰ	理学療法評価学で学習したものを、実際の相手を交えて実習することで実践できるようになる	2年後	45	1			○	○		○		
45	○		理学療法評価学実習Ⅱ	理学療法臨床実習で学んだ評価事項を改めて製紙、個々の症例に合わせた評価を説明できる。	4年前	45	1			○	○		○		
46	○		運動療法学Ⅰ	運動療法の歴史、基本的概念について学び、運動療法構築への概念を説明できる。	2年前	30	1	○			○		○		
47	○		運動療法学実習Ⅰ	基本的な運動療法を学び、各理論を基に実際の方法論について実技を通して実践できる。	2年前	45	1			○	○			○	
48	○		運動療法学Ⅱ	疾患における病態を理解し、対象疾患に対する基本的な運動療法の構築について説明できる。	2年前	30	1	○			○		○		
49	○		運動療法学実習Ⅱ	各種疾患に対する運動療法について、実技を通して実践できる。	2年後	45	1			○	○			○	
50	○		物理療法学	物理療法の概念、基本的な物理学の知識、各種物理療法機器の適応・禁忌を学習し、機器の使用方法を説明できる。	2年前	30	1	○			○		○		
51	○		物理療法学実習	物理療法学で学んだ知識を用いて、各種機器の取扱、方法について実技を通して実践できる。	2年後	45	1			○	○			○	
52	○		日常生活活動学	日常生活活動の概念や使用機器について説明できる。	2年前	30	1	○			○			○	
53	○		日常生活活動学実習	疾患・障害を想定して、福祉用具機器や介助法、日常生活動作への助言等を実践できる。	2年後	45	1			○	○			○	
54	○		義肢装具学	基本的な義肢・装具の構造と機能、各疾患への適応について説明できる。	2年後	30	1	○			○		○		
55	○		義肢装具学実集	義肢装具学で得た知識を用い、身体測定・作成等の実習を交えて実践できる。	3年後	45	1			○	○		○		
56	○		理学療法技術論Ⅰ（整形外科疾患）	整形外科疾患に対する理学療法評価・ちり用について学習する。グループワークを通じて、症例検討をできるようになる。	2年通年	60	2	○			○		○		
57	○		理学療法技術論Ⅱ（中枢神経疾患）	中枢神経疾患に対する理学療法評価・治療について学習する。グループワークを通じて、省令検討をできるようになる。	2年後	60	2	○			○		○		

58	○		理学療法技術論Ⅲ（呼吸循環疾患）	呼吸・循環疾患に対する理学療法評価・治療（喀痰等の吸引を含む）について学習する。症例を提示しながら具体的な方法論を説明できる。	3年後	30	1	○			○		○		
59	○		理学療法技術論Ⅳ（小児期疾患）	小児期疾患に対する理学療法評価・治療について学習する。症例を提示しながら具体的な方法論を説明できる。	2年後	30	1	○			○		○		
60	○		理学療法技術論Ⅴ（難病・スポーツ障害）	難病・スポーツ仕様外に対する理学療法評価・治療について学ぶ。症例を提示しながら具体的な方法論を説明できる。	3年前	30	1	○			○		○		
61	○		理学療法演習Ⅰ	理学療法評価学にて得た知識を用い、臨床現場を意識した流れ、方法論、アセスメント、動作分析を実践できる。	3年前	60	2		○		○		○		
62	○		理学療法演習Ⅱ	臨床現場で体験した知識や技術を用い、検査測定データをまとめ、解釈することができる。	3年後	60	2		○		○			○	
63	○		地域福祉論	地域における保健・福祉の概念を知り、関連法規について学ぶ。社会的な生活環境について説明できる。	1年後	30	1	○			○			○	
64	○		地域理学療法学	地域理学療法の意義・現状について学習する。具体的な事例を基に、その流れについても説明できる。	2年前	30	1	○			○		○		
65	○		地域理学療法学実習	地域理学療法学の知識を用いて、具体的な模擬症例を通しその方法論や組み立て方を説明できる。	2年前	45	1			○	○		○		
66	○		客観的臨床能力試験	臨床実習の総括として、基本的な必要な理学療法技術を確認し、実践できる。	4年前	45	1			○	○		○		
67	○		臨床評価実習	臨床実習指導者の下、理学療法業務を見学、体験し、医療人としての接遇と的確な理学療法評価が説明できる。施設での実習に加え、地域での訪問・通所リハビリテーションも含む。	3年後	40	1			○		○		○	○
68	○		臨床実習Ⅰ	学んできた知識・技術を活かし、臨床実習指導者の元、理学療法業務全般について経験し、実践できる。施設での実習に加え、地域での訪問・通所リハビリテーションも含む。	3年後	240	6			○		○		○	○
69	○		臨床実習Ⅱ	学んできた知識・技術を活かし、臨床実習指導者の元、理学療法業務全般について経験し、実践できる。施設での実習に加え、地域での訪問・通所リハビリテーションも含む。	4年前	280	7			○		○		○	○
70	○		国家試験演習Ⅰ	理学療法士に必要な基礎知識（解剖学、運動学、生理学等）を整理し、説明することができる。	1年後	280	7	○			○		○		
71	○		国家試験演習Ⅱ	理学療法士に必要な基礎知識（一般臨床医学、整形外科学、神経内科学等）を整理し、説明することができる。	2年後	30	2	○			○		○		
72	○		国家試験演習Ⅲ	理学療法士に必要な基礎知識（理学療法評価学等）を制し、説明することができる。	3年後	60	4	○			○		○		

73	○		国家試験演習Ⅳ	理学療法士に必要な基礎知識（理学療法治療学等）を整理し、説明することができる。	4年後	60	4	○		○	○								
74	○		理学療法総合演習	理学療法士に必要な知識と技術を制し、基本的な評価技術を実践することができる。	4年後	60	4		○	○	○								
75		○	PTスポーツ概論	学んできた基礎知識を活かし、理学療法の対象となるスポーツ障害に対する理解を深めることができる。	1年後	30	1		○	○	○								
76		○	PTマネジメント概論	学んできた基礎知識を活かし、理学療法士の携わる地域包括ケアシステムや健康な街づくりに対する理解を深めることができる。	1年後	30	1		○	○	○								
77		○	PTメディカル概論	学んできた基礎知識を活かし、理学療法の対象となる高齢者や障害者に対する理解を深めることができる。	1年後	30	1		○	○	○								
78		○	PTスポーツ演習Ⅰ	理学療法の知識を基に、アスリート・選手のスポーツ障害予防について説明することができる。	2年前	30	1		○	○	○								
79		○	PTスポーツ演習Ⅱ	理学療法の知識を基に、アスリート・選手のパフォーマンス向上について説明することができる。	2年前	30	1		○	○	○								
80		○	PTマネジメント演習Ⅰ	地域理学療法の知識を基に、街づくりや地域活性化について説明することができる。	2年前	30	1		○	○	○								
81		○	PTマネジメント演習Ⅱ	専門分野の知識を基に、医療・介護現場でのマネジメントや人材育成について説明することができる。	2年後	30	1		○	○	○								
82		○	PTメディカル演習Ⅰ	理学療法評価・治療の知識を基に、高齢者・障害者のリハビリテーションについて説明することができる。	2年後	30	1		○	○	○								
83		○	PTメディカル演習Ⅱ	理学療法評価・治療の知識を基に、フレイル（介護予防）について説明することができる。	2年後	30	1		○	○	○								
84		○	PTスポーツ演習Ⅲ	具体的な事例を基にアスリート・選手の予防・リハビリテーションを実践することができる。また、障害者スポーツの理解を深めることができる。	3年前	30	1		○	○	○								
85		○	PTマネジメント演習Ⅲ	学内外での実践を通して、街づくりや地域活性化、また、現場でのマネジメントや人材育成の理解を深めることができる。	3年前	30	1		○	○	○								
86		○	PTメディカル演習Ⅲ	高齢者施設などの現場で介護予防や運動指導を実践することができる。また、介護や認知症の理解を深めることができる。	3年前	30	1		○	○	○								
合計				86 科目			3720 単位（単位時間）												

卒業要件及び履修方法	授業期間等
------------	-------

卒業要件：	校長は、第10条に定める授業科目の成績評価及び卒業判定会議の審議に基づき、課程修了の認定を行う。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：	選択科目については単位認定は行うが、卒業要件には該当しない。また、選択できる合計単位数は、1学年1単位、2学年2単位、3学年3単位とする。	1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。